

「たかがカラオケされどカラオケ」、今回は筆者が従事しているカラオケについて記述します。ご存知の通り、カラオケとは文字通り「空のオーケストラ」で、戦後まず放送局でオープンリールのテープレコーダーで使われ始めました。それまでは歌番組では必ずオーケストラ又は数人編成のバックバンドが必ず付いていましたが、地方のイベント等では費用も嵩むしメンバーの都合で出来ない時があり、事前に録音しておいた伴奏に合わせて歌う事が時々有り、それがカラオケの始まりです。又レコード会社も歌手のスケジュールとオーケストラのスケジュールが合わない事があり、やはり事前に録音してそれに合わせて歌を録音する様になりました。勿論それだけでは無く、歌手によっては何度も何度も録音してその中で一番良いものをレコード化することから、オーケストラでは大変だと言う事もありました。カラオケと言っても現在の様な物では無く、歌う本人のキーやアレンジに合わせた物で、手造りと言って良いでしょう。唯オープンリールだった事と機材が大変高価だったことから一般には普及しなかったようで、酒席での歌の伴奏は手拍子かせいぜい茶碗を叩く程度で「小皿叩いてチャンキおけさ・」の通りです。又その頃は繁華街（飲み屋街）には必ず流しがあり「お客さん一曲いかがですか」でリクエストを受け、いくばくかのお金で2～3曲ギターやアコーディオンで演奏または歌唱して居ました。これらの方々もカラオケの普及と共に姿を消しつつありますが、極一部残っている様で以前記述しました新宿ゴールデン街には居ます。さて前置きが長くなりましたが、カラオケ発祥に地は神戸です。1971年当時、神戸三の宮で流しをしていた「井上大祐」（いのうえだいすけ）と言う人が馴染みの客から「今度社員旅行に行くので、俺がいつも歌っている歌の伴奏をテープにしてくれないか」との相談を受け当時出始めたカセットテープにして渡したところ好評で、他の御馴染みさんからの注文が殺到し、これは商売に成ると考え、RCA社開発の8トラックテープに4曲入れ発売したのです。今の様に著作権や隣接権も難しく無い頃でした。そして会社を興し本格的にカラオケテープ販売の乗り出し、一時は相当な財を成したそうですが、残念ながら意匠登録や特許を全く取っていなかった為、市場を後発のメーカー業者にとって変わられていきます。（もし特許関連の申請が成されておれば現在年間100億円近い特許収入が見込めるそうです）そして爆発的な普及が始まりました。何しろローテク機材だけに家内工業的メーカーからキチンとした音響メーカーまで雨後のたけのこの如く乱立し、販売店もひけをとらず各地に出来ていきます。中にはお客の取り合いで殺傷事件まで起こったほどです。酒を飲んで歌をうたう機材との需要は有りましたが、それ以外に飲み屋のネーちゃんの質の低下も見逃せません。話題も何も無い「パープリンネーちゃん」が場を持たすには絶好のツールだったのです。「ハーさん一曲うたってよ・ハイ100円」と言う様に集まって金が今日のカラオケ隆盛の元なのです。やがて著作権や隣接権が厳しく成り、それをクリアした大手機器メーカーが残って、その他有象無象のメーカーや販売業者は淘汰されていきます。

（以上カラオケ創世記から普及期）

しかしカラオケ機材が設置されている所は酒を飲む所と限定されカラオケは酒席の余興として考えられていたので、必然的に楽曲は演歌が多く、若い世代や女性にはなかなか利用され無かったものです。しかし一部に、酒を飲まなくて良いから純粋に歌（歌謡曲）を楽しみたい・歌ってみたいと言う人達が表われ、それがカラオケボックスへ繋がっておきました。又カラオケ機材もテープからCDへと変り今迄の様に歌詞カードをめぐって歌詞を探す手間が

省け、機材上のテレビ画面に歌詞と背景の映像が出てくる様になり、誰でもコマンダー（リモコン）一発で選曲できる時代を迎えます。但しCDカラオケの背景映像は静止画で内容もつまらない物が多くレーザーディスクが参入すると、映像は動画でクリアー、曲数も多く（1コンソールに40枚内蔵で480曲前後）その席をゆずり渡します。1980年代始め、岡山県に貨車の中古を使ったカラオケボックスがCD・レーザーディスクカラオケの利便性を引っさげて登場します。宴会の二次会や仲間同士の利用で繁盛し、たちまち燎原の火の如く全国各地に広がっていきました。最初の頃は貨車やコンテナの中古を使った設備的にも貧弱なものでしたが、カラオケ機器メーカーの第一興商が「ビッケコー」と言う名前できちんとした施設を造り、当初は駅前にそして郊外へと展開していきます。

（以上カラオケボックス創世記）

その頃当社もアンテナショップとして調布国領・小平・小茂根の3箇所に店舗を構えました。やがてカラオケ機材は通信カラオケへと序々に変わっていきます。1992年ゲーム機器メーカーのタイトーが通信カラオケ「X2000」を世に送り出します。続いてミシンメーカーのブラザーが別会社エクシングから「JOYSOUND」を引っさげ参入、第一興商は「DAM」ギガネットワークは「GIGA」バイオニアは「BeMAX」日本ビクターは「孫悟空」セガは「セガカラ」有線ブロードネットワークは「U-KARA」そしてOIMの販売店ブランド等、群雄割拠の時代が始まります。これを機会に演奏曲数が一挙に増加します。今迄は機材の中に内蔵していた曲が通信を通じて本部サーバーより持って繰られる様に成り桁違いに増えたのです。各社各様、長所もあれば短所もありましたが、平均して言える事はほとんどの人が歌う歌は選曲可能なこと、そして最大の欠点は音が良く無い事でした。（音にメリハリが無い・ダイナミックレンジが狭い・高い音域が歪む等々）これは当時のMIDI音源のICが貧弱だったことから来ています、（基本的に通信カラオケ本体はプレイヤーでは無く、一種のシンセサイダーの為D-A変換で音を造る音源ICの良否が音質を決定する）。従ってまだまだレーザーディスクの愛好者が多く、カラオケ店舗では両方設置していました。

（以上通信カラオケ黎明期）

前述の通りアンテナショップとして開いた3店舗は当時のブームに乗って盛況で、当社も本格的参入を決意し、リーダーにエンタテイメントに精通した人物を迎えたのです。指導力・洞察力・発想の柔軟さに秀でたその人はカラオケ業界を知るにつけ「確かにカラオケは普及し将来性もある。しかし業界は村芝居の域をでて居ない、従って未だマイナーな存在で企業産業として認知されるには一流劇場での公演が必要である。もっと明るく、子供やファミリーで楽しめる場所の提供が当社の責務であり、ひいては業界の発展に寄与出来、社会の認知も得られる」と考え実践したのでした。それまでのカラオケボックスは機材が有れば良いとの考えから利用者に対するサービスや店舗の清掃徹底等はおざなりでしたが、それでも客が来ることからいい加減な運営を行っている所がほとんどだったのです。まず建物を夢が持てる様な物にしました。提供する飲食物は得意の腕でファミレス並の品数・味付けにしました。接客に注意し、初めて制服を採用するなど業界としては活気的な事を次々と採用したのです。これは業界にとってはカルチャーショックで当然お客様から好感をもって迎えられ、1号店～2号店と連日繁盛していきます。当時業界では戦々恐々でこんな話があります。「☆☆☆☆の店舗は原爆だ、近所に投下（オープン）されると半径5Kmのカラオケ店は吹き飛ばされる」一部の地域ではそう言う事もありましたが、共栄共存で皆さんも営業なさっておられます。そのうちコンテナや貨車を使ったカラオケボックスが設備の老朽化で廃業し、又個

人営業者も設備投資に耐え切れず廃業化せざるを得なく成って止めていきました。何しろ最新の機材はシステム一式で300万円を超え、その音源使用料を含めると20~50台と必要とする業者にとっては相当な負担となります。これは飲食店でも言えることでリース料金の高騰が小さい店経営の足を引っ張っていると言っても過言では無いでしょう。スナック等でオネーちゃんから「ねー歌ってよ、お願い」と言われるのもリース料金を稼がねばとのママの指示結果でしょう。又新規参入業者も増えています。長野に本拠を持つ「コートダジュール」大阪の「カラオケパティール」東北地方で展開している「自遊館」激安の「招き猫」等大小取り混ぜて10数社がひしめいています。よく激安ルーム料金50円とかの看板を見かけますが、15分単位で且つ中では必ず一品注文（これが不味い・高い、新宿の某店では薄いコーラが500円、中ビンビールが1000円）することが義務つけられており、出る時は結構な値段になりますから諸兄も注意して下さい。話を戻して通信カラオケ機材の話ですが、当初前述の様なメーカーが乱立していましたが今では第一興商の「DAM」エクシングの「JOYSOUND」有線ブロードネットワークが新たに提携したBMBが発売している「UGA」の3社が大きな占有率を占め、カラオケ店や飲食業界はこれらがほとんどです。通信カラオケでは音源を配給する側にも大きな設備投資（サーバー・音源製作費・システム構築費用・著作権料・回線使用料等）が求められ、少ない端末（顧客通信カラオケ機材）では収支取れないので撤退したメーカーもあります。その後通信カラオケは飛躍的な発展を遂げます。まず音源を内蔵シンセサイダーで造っていたのが、サンプリングによる生音へ換えた事、又D-A変換ICの改良とビット数を増やしたことで大幅な音質改善が図られ市販CDと同程度までに成り、ユーザーの不満は解消されました。又通信回線もISDNから光通と変り映像がサーバーから送れる様になって新曲のプレゼン画像が即見られる様になり、メーカーによっては映画やスポーツ中継まで行っています。昔の様な、曲が違っても同じ映像が出た頃に比べれば隔世の感があります。昨年BMBより発売された「UGA+」では映像がハイビジョンとなり、きめの細かさが好評の様です。（特別な映像圧縮技術ICの開発）又曲の保存には今迄は内蔵ハードディスクでしたが、固定チップと成って選曲速度も速くなり、機材もユニット化されてメンテ等は故障したユニットをワンタッチで交換するだけとなって、飲み屋の薄汚れた所で酔客に詰られゴキブリとたわむれながら修理する辛さが解消されたとサービス担当者のお話を聞きました。又特筆すべきはコマンダー（リモコン）の進歩で、今迄は曲名表からリクエストした曲の番号を探し、数字で入力していたのが、曲別・歌手別・ジャンル別・年代別・ヒット曲別とディスプレイに出て来た曲を選んで指先かスティックで入力出来る様になり、手間が大幅に省けた事でした（デンモク・キョクナビ・UGANAVI）これはユーザーには好評で時間通りの歌う曲数の増加にも繋がりました。ちなみのこれを開発したのは社員5~6名のベンチャー企業と聞いております。

（以上ハイテクカラオケ隆盛期）

さて今後カラオケはどうなるのでしょうか。唯、言えることは絶対に無くならないと思われまます。昔日本人は後ろめたい気持ちで歌を歌っていましたが、カラオケが出来た事で老若男女人前で歌うことの楽しさを知ったからです。又当社の様なカラオケ店運営業はどうでしょうか、今全国で13万ルームと言われていますが大手3社（当社・ビックエコー・コートダジュール）で占有しているルーム数は約3万5千ルーム位で占有率では26.9%でまだ開拓（パイの取り合い）の余地があります。カラオケ第2次戦国時代幕開けです。ここまではカラオケの光の部分に記述しましたが陰の部分としてカラオケは歌謡曲に質の低下を招きました。

今発売される歌はそのほとんどが素人でも難無く歌える様に音域が狭く、リズムも単調で音楽としてはつまらない物が圧倒的です。又オリコンチャートでもカラオケで人気のある曲が上位を占めると言う現象も出ており、日本歌謡曲の破壊者と言っても過言では無いと思います。そして酒の席での会話が無くなりました。以前はお互い「どうか こうとか」の会話が有ったのですが、今では各自の視線がモニターのみ注視し、人の歌等、聞いてはいないと言う希薄な関係を生みつつあります。最後にカラオケは日本で生まれた大衆文化ですが、今や世界の国々で歌われ、普及し「カラオケ」と言う言葉は真珠の重さを表す「刃」と共に世界共通語として確固たる地位を占めるまでに成りました。最後に今多く使われている機種を案内します、飲み屋で話題にでもして下さい、尊敬されるかも・・・？

(メーカー)	(機種名)	(型名)	(総曲数)	(邦楽曲)
第一興商	BBサガ-DAM f	G100F	82452曲	61699曲
	韓国・フィリピン・中国曲多数 デンモク使用可 その他遊び機能あり 光通信 精密採点機能 DAMステーション使用可 (最新機種)			

第一興商	BBサガ-DAM	G100	82452曲	61699曲
	韓国・フィリピン・中国曲多数 デンモク使用可 その他遊び機能あり 光通信 精密採点機能			

第一興商	NEWサガ-DAM	G50ii	62026曲	50115曲
	従来のDAMカラオケ 上記2機種に比べれば多少音質悪い			

エクシング	新ハイパーJOY	WAVE	91000曲	72000曲
	韓国・フィリピン・中国曲多数 キョクナビ使用可 (最新機種) ハイビジョン映像 その他遊び機能あり 採点機能あり			

エクシング	ハイパーJOYV2	V2	84119曲	68554曲
	日活映画放映 外国曲多数 キョクナビ使用可 採点機能あり			

BMB (有線)	ウガプラス	UGA+	119752曲	74702曲
	韓国・フィリピン・中国・その他外国曲 ウガナビ使用可 (最新機種) 光通信 ハイビジョン映像 映画放映 遊び機能あり			

BMB	UGA	UGA	118602曲	73589曲
	韓国・フィリピン・中国・その他外国曲 ウガナビ使用可 遊び機能 各種ゲーム搭載 採点機能			

以上の7機種が席卷しています(でもいつも歌われる曲数は300曲位)。唯、前述した様に最新機種の価格が高騰している為スナックや飲み屋では対応出来ず古い機種を使っている所も多いようで、メーカーが同じなら古い機種でも曲は少ないながら出てきます。店に居る「俺はDAMが良いとか、私はJOY・UGAが良いとか」機種にこだわるお客がいますが、歌の上手い人は何で歌っても上手いし、下手な人はどんな機材で歌っても下手と言うことを終わりの言葉にしたいと思います。